

公益社団法人 埼玉県理学療法士会
「理学療法－臨床・研究・教育」執筆要項

1. 論文の構成

1) 「研究論文」の構成

(1) 標題 (表題)

内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むように配慮すること。原則として略語・略称は用いない。

(2) 著者名

著者は、当該研究・執筆に寄与が大きい人を必要最小限に記載したうえで、当該論文に関する責任著者(連絡責任者)を明示すること。

(3) 著者所属名(共著者を含めて記載)

(4) 要旨

和文にて「目的」、「方法」、「結果」、「結論」に項を分けて簡潔に記載する。

(5) キーワード

標題および要旨より抽出し、不十分な場合は本文から補充する。原則として、国際的に広く通用する言語または日本語で表示する。

(6) 本文

①はじめに(序論、緒言)

研究の背景、臨床的意義、研究の目的、取り扱っている主題の範囲、先行研究との関連性の明示などを記述する。

②対象および方法

用いた研究方法について第3者が追試できるよう具体的に記述する。倫理的配慮も本項に記述すること。

③結果(成績)

研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。

④考察(分析)

結果の分析・評価、今後の課題等を記述する。

⑤結論

研究で得られた結論を200～300字で簡潔に記述する。

⑥謝辞

著者資格に該当しない研究への貢献者、および助成金受給等について記載する。

(7) 文献

引用文献のみとする。記載方法については下記参照。

(8) Appendix(任意)

必要に応じて、本文の内容を補足する載せられなかった詳しいデータ等はAppendixとして投稿する。この場合、本文中の関連箇所「Appendix 番号」を記載すること。Appendixについては紙面に掲載される際には印刷されないため、あくまでも補足的なデータとして使用する。本文中の論旨に関わるような内容についてはAppendixとしてではなく、図表として投稿すること。

2) 「症例検討」の構成

(1) 標題(表題)

内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むように配慮すること。原則として略語・略称は用いない。

(2) 著者名

著者は、当該原稿の執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。また当該原稿に関する責任著者(連絡責任者)を明示する。

(3) 著者所属名(共著者を含めて記載)

(4) 要旨

和文にて「はじめに」、「症例記述」、「考察」、「まとめ」等に項を分けて簡潔に記載する。

(5) キーワード

標題および要旨より抽出し、不十分な場合は本文から補充する。原則として、国際的に広く通用する言語または日本語で表示する。

(6) 本文

①はじめに(序論、緒言)

対象を選択した理由や根拠を記述する。

②症例記述(症例紹介)

症例の基本的事項;基本情報(年齢、性別等)、病歴(現病歴、必要であれば既往歴、家族

歴, 社会生活歴), 臨床検査所見, 理学療法評価結果, 理学療法方針・プログラム, 治療経過を簡潔に記述する。

倫理的配慮およびプライバシーの保護に関しては, 投稿規定「8. 研究倫理」の6) の記載内容に従うこと。

③考察

過去の報告との類似点や相違点について比較検討を行い考察する。今後の治療の展開・方針転換や研究への広がりがある場合は, それらの提案についても記述する。

④まとめ

症例を通じて明らかになった点を200 ~ 300字で簡潔に記述する。

⑤謝辞

著者資格に該当しない研究への貢献者, および助成金受給等について記載する。

(7) 引用文献

引用文献のみを本文の引用順に記載する。

(8) その他

編集部の判断により, 症例検討の内容によっては「研究論文」の構成で本文の再構成を指示する場合がある。

3) 「その他(特集, 資料, 実践報告, 調査報告など)」, 「文献抄録」の構成

これまでの本誌の内容を参考に作成すること。その他については編集部の指示に従うこと。

2. 投稿原稿の構成

表紙頁, 和文要旨, 本文, 文献, 図表の表題およびその説明文, Appendix(任意)で構成する。

3. 原稿の規定分量

1) 講座(依頼原稿のみ)では, 原則として研究論文の規定に準じて執筆を求めますが, 詳細については編集部の判断による。

2) 研究論文では要旨・本文・文献・図表を含み, 原則として最大刷り上がり5頁(10000文字相当)以内で執筆する。

3) 症例検討では要旨・本文・文献・図表(5枚以内)を含み, 原則として最大刷り上がり3頁(6000文字相当)以内で執筆する。

4) その他(特集, 資料, 実践報告, 調査報告など)では要旨・本文・文献・図表を含み, 原則として最大刷り上がり5頁(10000文字相当)以内で執筆する。

5) 記事の種類により定められた規定分量内で原稿を執筆する。ただし編集部より投稿形式を変更するよう指示された場合はその限りではない。

6) 図表は, 刷り上がり1/4頁大のもの1個を400字として換算する。図表は原則5枚以内とし, 超

過する場合には, 本文の字数を減じ規定の文字数となるよう調整すること。

7) 査読後の修正原稿についてはこの限りではなく, 担当編集部員の指示に従うこと。

4. 表紙項

論文には表紙頁をつける。表紙頁には, 1. 希望する記事の種類, 2. 標題, 3. 著者名(共同著者を含めて記載)・協会会員番号, 4. 所属名(共著者を含めて記載), 5. 責任著者連絡先(〒・住所・電話・Email), 6. 要旨文字数, 7. 本文・文献を合わせた文字数, 8. 図表枚数, 9. 総原稿文字数に関する情報を記載する。

※ 投稿原稿では, 上記のうち, 3, 4, 5を削除して提出すること。

5. 要旨

論文には和文の要旨(400字程度)をつける。

6. 本文

1) 本誌のホームページ(<http://www.saitama-pt.or.jp/pt-pre>)より, 本誌が規定するフォーマットをダウンロードして使用すること。

2) 余白25 mm, 40文字×30行のレイアウトで, フォントはMS明朝体, 標準, 10.5ポイントを使用する。英数字は「日本語と同じフォント」とし, 数字は半角とすること。

3) 文章は楷書・横書き, 口語体, 現代かなづかい, 数字は算用数字, 単位は国際単位系(SI単位)を用いる。

4) 章は1, 2…, 節は1), 2)…, 項は(1), (2)…, 以下①, ②…とする。

5) 句読点は, 日本文の場合は全角の「,」, 「。」を使用し, 英文は半角の「,」, 「.」を使用する。

6) 引用文献記載数字は半角上付きとする。
例) ¹⁾

7) 引用文献は, 引用した内容の直後, 著者名の後, もしくは文章全体の場合は, 「,」や「。」の前に付ける。

例) …である¹⁾。
例) 埼玉ら¹⁾により…

8) 複数の引用文献の記載は以下のようにする。
例) 1, 2) 1, 3) 1-5) 1, 4, 5) 1-3, 5-7)

9) 和文本文内の括弧は全角を用い, 括弧の前後に半角スペースは入れない。

例) (図参照), 理学療法(physical therapy),

10) かな, 漢字, 英数字, 符号の間は, 半角スペースを入れる。

例1) 平均 1.0 ± 0.3 日

例2) r = 0.77

例3) $p < 0.05$

例4) $n = 20$

例5) 3 kg

例6) $a + b$ (数式の場合)

11) 以下のような単位, および連続することで意味をなす符号は例外的に半角を入れない。なお, 下記の例外以外は, 原則半角を入れる。

例1) 70%, 37°C, 90°, 5N

例2) +1, -2

例3) 範囲を示す場合の - (ハイフン) : 4-5 kg

7. 図表

1) 図・表は本文に出てくる順に, それぞれ一連の番号をつける。グラフィック表現および写真は図に含める。番号および表題は, 図の場合は図の下に, 表の場合は表の上につける。なお, 投稿時は図表の表題および説明文は, 本文の後に頁を新たにして記載すること。

2) 論文の刷り上がりは白黒となるため, 図表の作成時に注意すること。

3) 他書(他誌)から図表等を転載する場合は原稿の一部となるため, 論文著者の責任において著作権者に許諾申請を行い, 使用した図表にはその旨を記載すること。また, 出典を明記すること。Webサイトに掲載されている著作物(写真など)についても同様に扱う。無断転載は著作権の侵害となる場合があるため注意すること。以上について編集部は一切の責任を負わないものとする。

8. 文献

引用文献は本文の引用順に並べる。雑誌の場合は著者氏名: 論文題目. 雑誌名. 西暦年号; 巻: 頁(最初-最終). の順に書き, 単行本の場合は著者氏名, 書名, 編集者名, 発行所名, 発行地, 西暦年号, 頁を記載する。文献の省略は公の省略法(Index Medicus など)に従う。引用文献の著者氏名が3名以上の場合には最初の2名を記載すること。その他は, 他, または et al. とする。

例1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程—Ten Step Test を用いて—。理学療法学. 2008; 35: 35-41.

例2) Tompkins J, Bosch PR, et al. : Changes in functional walking distance and health-related quality of life after gastric bypass-surgery. Phys Ther. 2008; 88: 928-935.

例3) 信原克哉: 肩—その機能と臨床—(第3版). 医学書院, 東京, 2001, pp156-168.

例4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): Lovell and Winter's Pediatr

ic Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp97-112.

例5) 名郷直樹: EBMの現状と課題, エビデンスに基づく理学療法活用と臨床思考過程の実際. 内山 靖(編), 医歯薬出版, 東京, 2008, pp18-38.

例6) <http://www.who.int/classifications/icf/site/Icfttemplate.cfm> (参照 2007-05-19)

9. 数量の単位

単位は原則として国際単位系(SI 単位)を用いる。長さ: m, 質量: kg, 時間: s, 温度: °C, 周波数: Hz

10. 略語

略語は初出時にスペルアウトし, 和訳を記載する。

11. 機器名の記載法

機器名は「一般名(会社名, 製品名)」で表記する。なお, ソフトウェアは「製品名, バージョン番号」で表記すること。

12. 倫理審査の記載法

投稿原稿では施設名は記載せず, 承認番号のみの記載とする。最終原稿では施設名, 承認番号を明記すること。

13. 謝辞

文中で謝辞を述べる際には, 関係者同士が事前に確認し合い了解を得ることを前提とし, 編集部はこれに関する一切の責務を負わないものとする。また当該研究の実施にあたって研究費助成を受けた場合は, その資金名およびその番号を記載すること。なお, 投稿者の特定に繋がらないように投稿時には空欄とすること。

14. その他連絡先

その他, 投稿に際して不明な点がある場合には以下のメールアドレスに問い合わせること。

連絡先: pthenshu0502@saitama-pt.or.jp

(平成31年1月10日改定)